



世界の人々と新潟が共に発展していくことを目指して ～自治体や地域国際化協会との協働で新潟を住みよい街にしたい～

特定非営利活動法人新潟国際ボランティアセンター 広報・ソーシャルビジネス担当 松山 千紘

新潟の市民が集まり、結成された組織

新潟国際ボランティアセンター（NVC）は、1998年に日本国際ボランティアセンター（JVC）の元代表谷山博史さんが、新潟大学で当時担当していたラオス事業について講演して下さったのがきっかけで設立されました。谷山さんとラオス事業をお手伝いすべく、講演を聞いた学生・新潟市民・マスコミ・企業がチャリティバザーを開催し売り上げた収益金を寄付したことから私たちNVCはスタートしました。

その後、毎年バザーを開催し、団体として組織化し、独自の海外支援プロジェクトを展開するようになりました。現在は、「地球上に作られた人と人との境界を越え、心に響き合う交流を通じて、幸せな未来に向かって助け合い育ち合うぎずなを作るかけ橋となることを目指しています」というビジョンの下に、海外事業と日本事業を展開しています。



ベトナム奨学金授与式の様子。現在、サポーター制度によって奨学金ドナーさんと1対1で学生をつなぎ、顔の見える関係を築いている

ベトナムにて教育支援、人材育成支援

現在、海外事業と国内事業を実施しており、海外事業

は、ベトナムでの奨学金支援事業、障がい児支援事業、シェルター女兒支援事業、農村部における小学校支援事業の4つになります。また、設立より継続している日本国際ボランティアセンターのラオス事業へも協力させていただいております。



シェルター女兒支援事業の現場。ミシンを使って縫製技術を習得し、将来自立して生活できるように支援しています。「将来縫製関係の仕事に就きたい人」と聞いたところ、多くの女児が手を挙げてくれた様子

特に、障がい児支援事業は、新潟県の地域国際化協会である（公財）新潟県国際交流協会から新潟・国際協力ふれあい基金の助成を受けて実施しています。NVCが目指す教育支援および軽作業習得による職業訓練支援を実施できるよう、ご支援いただいています。



障がい児支援事業にて軽作業を習得する少年。この作業に従事するための機械の購入資金を助成してもらいました

(公財)新潟市国際交流協会と共に 留学生の学ぶ環境整備支援

さまざまな海外事業を展開する中、1998年から(公財)新潟市国際交流協会と協働事業を実施しています。新潟市在住の私費留学生に対する「国民健康保険料助成事業」です。新潟で学ぶ留学生がケガや病気に心配しないで、安心して勉強してもらうことを目的としております。「日本は物価が高いから医療費も高額に違いない。病気やケガをしても医療機関を利用しないようにしなくては」と思って日本に来る留学生は多いです。しかし、風邪をひいたりケガをしたり、という状況は誰にでも生じることです。安心して医療機関を利用できる、新潟市は留学生にとって勉強や生活がしやすい環境を整え、多文化共生を達成したいと思っています。この留学生国保助成事業を受けた学生で、「恩返しにNVCの活動を手伝いたい」と言ってくる留学生は多くいます。中には、留学生インターンとなり事務所の常勤スタッフとして活動に参加してくれる人もいます。

また、2014年2月1日に、この留学生国保支援の取り組みを振り返り、今後に向けてさらに地域社会における多文化共生を発展させていくことを目的としたセミナーを開催。新潟県、新潟市、(公財)新潟県国際交流協会、(公財)新潟市国際交流協会など地元のみならず、北陸地域の(公財)とやま国際センター、石川県、(公財)石川県国際交流協会、(特活)国際協力NGOセンターなどから後援や共催を受けて、多くの方々にご参加いただきました。「協働」のあり方、さまざまな形態の協働



セミナーの様子

事例を学ぶと同時に、協働において「楽しい、勉強になる、頼もしい交流」が重要であると新しく言葉をつくりだしながら学ぶことができました。

国際交流・国際貢献を通じて 地元新潟の活性化を

今後は、海外事業と同時進行で地元新潟の活性化にも力を入れていきたいと思っています。新潟は少子高齢化や首都圏への人口流出などさまざまな課題を抱えています。NVCはベトナムで培った人材育成・教育支援のスキルを活かして、新潟の若者の人材育成にも力を入れています。インターン制度やアルバイトスタッフとしてNVCの活動に参加してもらい、NGOの実務や、海外でどのようなことをするのか、について体験してもらっています。世界の方々と新潟の私たちも共に発展していきたいように日々尽力していきます。



中国から来た留学生も、助成を受けた恩返しをしたい、とNVCのインターンスタッフになってくれました。企業訪問にて活動紹介をした時の様子(左)



イベントにてベトナム料理のブースを出店した時の様子。ベトナムから来た留学生が、NVCインターンスタッフとなり、ブースを取り仕切ってくれました